

2025年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立浅井中小学校	学校No.	31
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>本年度はSDGsの理念を土台としつつ、「いのちの授業」や「人権教室」を福祉教育の重要な機会と捉え、教育活動を展開した。福祉実践教室等の体験を通じ、身体的な違いだけでなく、互いの心の痛みに寄り添う「他者理解」の深化を目指した。身近な福祉から人権、そして命の尊厳へと視点を広げることで、多様性を認め合い、誰もが自分らしく生きられる社会の実現に寄与する実践的な態度の育成に努めた。</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>(1) 福祉実践教室（総合的な学習）</p> <p>5年生が車いす体験と高齢者疑似体験の講座を受講した。実際に車いすで生活をしている方の話を聞いたり車いすの体験をしたりすることで、障害のある方の苦勞を知り自分たちができることを考える機会となった。高齢者疑似体験では、装具を装着し、階段の上り下りや文字の読みづらさを体験した。不自由さを肌で感じたことで、高齢者の方への敬意と安全な環境づくりの必要性を痛感した。</p> <p>(2) 「いのちの授業」の開催</p> <p>助産師の方からお産の現場についてお話を伺い、生命誕生の軌跡を学んだ。実際に新生児の力強い心音を聴いたり妊婦さんから日常生活の苦勞や喜びを直接聞いたり活動を通じ、子どもたちは自分たちが慈しまれて生まれてきたことを実感したようである。目に見えない「いのち」を肌で感じる貴重な体験となり、自他の生命を尊重し、互いに支え合おうとする「他者理解」の心を深める大切な一歩となった。</p> <p>(3) 募金活動</p> <p>児童会と代表委員が中心となって、積極的な募金活動を展開した。2学期には「赤い羽根募金」を3日間実施し、多くの善意が集まった。</p> <p>(4) 人権週間の取り組み</p> <p>各学級で人権スローガンを考え、人権に対する意識の高揚を目指したり、いじめをなくすための標語づくりを全学級で取り組んだりした。さらに、人権擁護委員さんに来校いただき、全学年で人権教室を開催した。児童は他者の痛みや個性を尊重する大切さを学び、差別のない社会を自分事として捉え、共生しようとする心を育んだ。</p> <p>(5) 地域とのつながり</p> <p>普段から登下校でお世話になっている地域の見守り隊の方や民生委員さんを招いて、4月には「あいさつの会」、2月には「感謝の会」を実施した地域の方とのつながりを通して地域に対する愛情を育んでいる。</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>各活動を通じ、児童は多様な立場や命の尊さに触れ、他者への想像力を高めることができた。福祉や人権といった概念を、体験や対話を通して「自分事」として手触り感のある学びへと昇華できた点は大きな成果である。一方で、今後の課題は「行事の形式的な消化」からの脱却にある。そのためには、福祉や人権を他人事ではなく、自分の生活や人間関係における具体的な問題として捉え直す視点が不可欠である。今後は、教室での学びをどう日常の実践へと還元するか、学びをいかに具体的な行動へ移すかという「日常との接続」を重視したい。単なる知識の習得にとどまらず、社会の一員として、目の前の他者のために何ができるかを問い続ける姿勢を育むことが、今後の教育活動のさらなる深化につながるはずだと感じている。</p>			
<p>※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。</p> <p>※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。</p>			

2025年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立千秋東小学校	学校No.	32
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>本校は、「知・徳・体の調和のとれた、未来を拓くたくましい児童の育成を図る」を教育目標に、「自ら学び自ら考える子」「自らを律し、他を思いやる子」「健康で、意欲的に活動する子」をめざす児童像として教育活動を実践している。日常の学校生活や道徳、総合的な学習の時間等を通して、福祉の心と実践力を持った児童の育成を目指し、福祉推進実践校として以下のように取り組んだ。</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>(1)児童会活動を中心とした活動 異学年交流として、年度初めに顔合わせのペア活動を行った。お互いに手紙を書いて交換し、上の学年が計画した遊びで交流した。また、縦割り班によるなかよし清掃、ペア学年によるわくわくふれあいフェスタ等、上級生が下級生をリードして活動を行う交流を実践した。</p> <p>(2)福祉実践教室 5年生児童が、6月17日（火）に社会福祉協議会の方々を講師に迎えて車いす体験と手話体験を行った。実際に体験することで、その大変さを理解することができ、手助けをするには何ができるか考えるようになった。また、この活動をきっかけに、子どもたちは福祉に対する意識を高め、自分が興味を持ったことを調べて発表した。</p> <p>(3)地域の方々とのふれあい活動 地域ボランティアや老人会の協力で、伝統文化等を体験することができた。 1年生…昔遊び 地域の方に学校に来ていただき、こま回しやお手玉などを教えていただいたり、地域に伝わる伝統的な踊り（千秋音頭）を一緒に踊ったりした。 2年生…町探検 地域の農家の方にお話を伺いに行った。調べたことを班ごとにファイリングした。また、学校に隣接する老人施設を訪問し、施設の方の仕事を見学したり、お年寄りに学習したことを発表したりする交流を行った。 3年生…きな粉作り 地域の方に学校に来ていただき、大豆からきなこに変わる過程を、実際に活動しながら教えていただいた。 4年生…グラウンドゴルフ 老人会の方に学校に来ていただき、ゲームを楽しんだ。 5年生…稲刈り 農家の方に教えていただきながら、田植えや稲刈りを体験させていただいた。 6年生…しめ飾り作り 老人会の方に来ていただき、作り方を教えていただいた。 どの学年も、活動の後にはお礼の手紙を書き、地域の方々とのつながりを深めることができた。</p> <p>(4)道徳の学習を通して 道徳では、自他の生命を尊重し、他者や社会との関わりの中で、多様な価値を認めながら自分を見つめ直し、自分だからこそできる役割があることに気づかせ、勇気をもって行動することができる児童の育成を目指して指導した。</p>			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和7年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立起小学校	学校NO.	33
1 社会福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）			
(1) 目標	高齢者や障害のある人たちにとって、住み良い社会とはどんな社会なのかを体験活動を通して考え、自分たちができることを調査・追究することができる。		
(2) 計画	【1学期】福祉実践教室、福祉について調べ学習を行い、福祉についてまとめる。 【2学期】5年生の国語の時間の意見文を書く活動。		
(3) 推進体制	福祉教育部会を組織し、各学年と調整して計画を具体的に推進する。		
2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）			
(1) 福祉実践教室 5月27日（火）			
<p>本年度も5年生を対象に福祉実践教室を開催した。事前学習として、各学級で副読本「思いだしてごらん」を活用し、福祉の基本的な理念について学びを深めた。当日はまず、講師による「福祉」についての全体講義を受け、その後、「車いす」「点字」「ガイドヘルプ」の3つのコースに分かれて体験活動を行った。車いす体験では、基本的な操作方法を習得した後、実際に段差を超えたり、狭い通路を通り抜けたりする活動を行った。児童からは、普段気付かないわずかな傾斜や段差が、車いす利用者にとって大きな障壁となることの難しさや大変さを学んだという声が多く聞かれた。点字体験では、点字について講義を受けた後、専用の器具を用いて実際に点字を読んだり、自分の名前などを打ったりする体験を行った。指先の感覚だけで情報を得る難しさを感じつつも、視覚に障害がある人にとって点字がいかに重要な情報伝達手段であり、便利でありがたいものであるかを深く理解することができた。ガイドヘルプ体験では、2人1組のペアとなり、1人がアイマスクを着用して視覚障害者の役割を、もう1人がガイド役を務めた。階段の上り下りや障害物のある通路の通行を体験することで、視界が遮られることへの強い不安感や、安全に誘導することの責任感と難しさを肌で感じる事ができた。どの児童も初めての体験に対し、真剣な眼差しで取り組み、身体に不自由さを持つ方々の日常生活における苦労や、社会にあるべき工夫を学ぶことができた。この実体験が、誰もが過ごしやすい社会を構築するために自分たちに何ができるかを考える大きなきっかけとなった。</p>			
(2) 調べ学習と意見文の作成			
<p>体験活動後は、図書館の資料やインターネットを用いて、各々の興味に基づいた調べ学習を行った。国語科の「みんなが過ごしやすい町へ」の単元と関連させ、自分の考えを論理的にまとめる意見文の作成に取り組んだ。体験したからこそ言える重みのある意見が多く見られ、これからの社会のあり方について自らの考えを確立させることができた。</p>			
3 福祉教育の成果と今後の課題			
<p>これまでの学習を通じ、児童の「福祉」に対する意識は飛躍的に高まった。身体の不自由な方々とどのように接すべきか、社会全体がどうあるべきかを自分事として考える姿勢が見られるようになった。多くの成果が得られた一方で、学んだ知識や体験した思いを、日常生活における身近な人との接し方や具体的な行動へと完全に還元するには至っていない面もある。今後は、得られた気付きを日常の小さな実践へと繋げていけるよう、「見つめる心」と「実践力」をバランスよく育てていく指導を継続していきたい。</p>			

2025年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立三条小学校	学校No.	34
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>①総合的な学習の時間における、福祉に関する学習</p> <p>【目的】</p> <p>福祉に関する調べ学習を通して、社会福祉への関心を高めるとともに、「豊かな人間性」や「共に生きる力」を育むこと （活動対象）4年生</p> <p>② 尾西公園美化活動</p> <p>【目的】</p> <p>地域の公園を、異学年と地域のお年寄りを交えたグループで清掃することを通して、年齢を超えた地域の絆づくりを行う。 （活動対象）2・4年生（春） 3・5年生（秋）</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>①総合的な学習の時間における、福祉に関する学習</p> <p>(1)インターネットを活用した調べ学習</p> <p>図書室で調べた中で、興味を持ったことについて、インターネットを使ってさらに詳しく調べた。</p> <p>(2)福祉実践教室</p> <p>グループごとに手話、点字、車いすの各体験を通し、見えない、聞こえないことの困難さを知り、様々な特性を持った人たちと共に生きる力を育んだ。</p> <p>(3)スライドを利用したの発表</p> <p>学習した内容を学年廊下に掲示して、他のグループの児童が調べ学んだ内容を共有した。また、個人でスライドを作成し、発表会を行った。</p> <p>②尾西公園美化活動 5月2・4年生 11月3・5年生 8:30～10:20 尾西公園にて草むしり、落ち葉集めを行う。</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>【成果】</p> <p>福祉実践教室では、手話、車椅子、点字のグループに分かれて体験をした。子どもたちは講師の先生の話をも真剣に聴いたり、初めて使う道具や手話に戸惑いながらも集中して活動することができた。</p> <p>尾西公園美化活動では、異学年集団で地域のお年寄りと共に、公園の美化活動を行うことを通して、地域の方や異学年との結びつきが生まれている。また、清掃活動に対する意欲も高められている。</p> <p>【課題】</p> <p>今年度も体験活動を通して学ぶ機会を設けることができた。今後も豊かな人間性や共に生きる力を育てるには、さらにさまざまな体験活動を取り入れていくとよいと感じた。</p>			



2025年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立小信中島小学校	学校No.	35
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>(1) 目標</p> <p>福祉の町として、住みよいまちづくりをするために自分たちにできることは何かを考えさせ、福祉に関する実践力を高める。</p> <p>(2) 計画</p> <p>福祉について知る・福祉実践教室の開催・一人暮らし老人の方へ年賀状・総合学習での追究</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>(1) 福祉について知る</p> <p>福祉の新聞記事を読んだり、インターネットを使ったりして、地域の福祉の実態や取り組みについて調べるなどした。また、調べ学習に生かせるようにした。その後、インターネットや本を使った情報収集、同じテーマをもった子たちとの情報交流などを行い、様々な表現手段を用いて用紙にまとめた。</p> <p>(2) 福祉実践教室の開催 9月</p> <p>社会福祉協議会、SSWの方に協力してもらい、体験の前に動機づけ、事後には、SSWによる福祉とは何かの授業をしていただいた。 体験は、車いす、点字、手話、ガイドヘルプ、高齢者疑似体験の中から2つ選んで行った。</p> <p>(3) 一人暮らしの老人の方へ年賀状を送る 12月</p> <p>一人暮らしの老人の方々に楽しいイラストや温かな文面で年賀状を書いた。</p> <p>(4) 総合的な学習の時間での追究</p> <p>福祉の新聞記事、インターネットを使った調べ学習で、疑問に思ったことやもっと調べたいことなどから、テーマを決めた。その後、インターネットや本を使った情報収集、同じテーマをもった子たちとの情報交流などを行い、様々な表現手段を用いてスライドにまとめ、発表を行った。</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>調べ学習等を通して、福祉に対しての理解が深まった。そして、障害のある人の気持ちに気づき、共に生きるために自分ができることを考えようとする児童や地域の福祉施設について関心をもつ児童が増えてきた。 福祉実践教室を通して、障害のある人の気持ちをより深く感じることができた。今後も「福祉」に対する理解を深める指導を継続していくとともに、生活の中で障害者の方に出会ったとき、学習したことが生かされるようにしていきたい。</p>			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

2025年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立朝日東小学校	学校N o.	36
-------	------------	--------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

<p>本校の教育目標 校訓「強く 正しく 明るく」 【めざす子ども像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最後までねばり強く がんばりのきく子 ・いのちを大切にし 心と体を鍛え たくましく生きる子 ・よく考え 自分から進んで勉強する子 ・きまりを守り 人と協力できる子 ・やさしく 思いやりのある子 ・礼儀正しく 素直にあいさつのできる子
--

<p>福祉教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会や人々、自然との関わりにより、自然の営みや社会の一員としての自覚、そこに生きる人々を思いやる心豊かな児童の育成を図る。
--

<p>重点事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ あいさつ運動 ○ 社会福祉体験活動 ○ 高齢者福祉施設訪問 ○ 障害者野球講師とのふれあい ○ 地域の講師を招いた体験活動（昔遊び、華道） ○ 募金活動 ○ 見守り隊感謝の会

2. 福祉教育の具体的な活動内容（活動の記録）

【9月17日 福祉実践教室 5年生】

車いす、高齢者疑似体験、視覚障害ガイドヘルプ、手話の中から、各自、体験してみたいことを2つ選んで活動した。実際に体験することで、感じること、気づくことがたくさんあった。



【車いす】



【高齢者疑似体験】



【視覚障害ガイドヘルプ】



【手話】

【9月18日 高齢者福祉施設訪問 5年生】

地域にある高齢者福祉施設を訪問した。はじめに所員の方から施設の概要や高齢者の皆さんの生活、介護の仕事などについての仕事などについて説明をしていただいた。その後、利用者の皆さんにリコーダーや歌を披露した。



【所員の方の説明を聞く様子】



【リコーダーを披露する様子】

【9月26日 学校公開日 5年生】

世界身体障害者野球大会で日本代表主将を務めた松元剛さんをお招きし、松元さんの生き方や考え方から学んだり、一緒に野球をして交流をしたりした。



【松元剛さんとの記念写真】

3. 福祉教育成果と今後の課題

今年度は、新たに高齢者福祉施設訪問や、学校公開日での特別講師や地域の講師を招いての活動を行うことで、豊かな心を育てることができた。来年度も、これらの取り組みを継続していきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。